



富士川游博士



富士川博士没後五十年記念会
(上) 参加者は増え続け盛会であった
(下) 隣接する展示場の様子

富士川游博士没後五十年記念会

富士川游博士没後五十年記念式は、平成二年十月七日順天堂大学有山登記念講堂において開催された。

蒲原宏常任理事の司会によって、定刻二時式典の幕がきつておとされ、まず大塚恭男常任理事の辞につづいて、病をえて入院加療中の大鳥蘭三郎理事長のあいさつを大塚常任理事が代読した。富士川博士にたいし敬虔な黙禱がささげられた後、四人の演者による記念講演がおこなわれた。

郷土広島との関係からみた富士川游の世界を広島県の江川義雄氏が、呉秀三との交友と友情をとおして医史学探究の道をあゆんだ富士川游について精神科医の岡田靖雄氏が、医史学者としても数々の業績をあげている土肥慶三との交友について皮膚科医の長門谷洋治氏が、短い持ち時間を一杯につかかって、きわめて理解しやすい語り口で口演した。

最後に游博士の四男にあたる日本芸術院会員富士川英郎氏が、数々の雑誌を創刊し、発刊しつづけた業績をふまえて、医学ジャーナリストとして出発し、それを職業とし、そして生涯をつらぬいた富士川游について講演した。

当初有山講堂では広すぎるのではないかとの危惧もあったが、当学会会員をはじめ、新聞などの予告によって一般の聴衆の参加もあって、日本医史学の先達をしのぶにふさわしい盛大な記念講演会をもよおすことができた。宗田一常任理事の閉会の辞によって記念会はとどこおりなく終了し、地下食堂に場所をうつして懇親会がおこなわれた。参加した会員がこもごもマイクの前にたって、富士川游の偉大な業績をたたえた。講演会場の前のロビーでは、富士川博士の著書、書簡、遺墨の数々が展示されて、医史学界の偉人をしのぶにふさわしい品々に接した参加会員は、感慨をあらたにしたにちがいない。本記念会は、岡山においてひらかれた第九一回総会において平成二年度の事業として実施することが議決され、それにもとづいて実行委員会が編成されて、二回の委員会によって事業の内容のつめがおこなわれた。

実行委員会の構成は次のとおりである。委員長：宗田一 委員：富士川英郎 大塚恭男 蒲原宏 酒井シツ 矢部一郎
大村敏郎 蔵方宏昌 小曾戸洋 深瀬泰且

(深瀬 泰且)